

・文明人の至要諸権利

18世紀「当時の文明化した法律慣習の組織に編み込まれた諸原理は、機会均等と自決と自助の原理であった。この機会均等と自助の文明的な仕組みを保護するはずの諸権利のうちで、自由契約、および財産安固の諸権利がその主要なものであった。この二つの権利は、貿易、産業、投資、信用、債務、その他なんでも経済的制度物と読んでしかるべきものに関わる限りに於いての、いわゆる近世的見地なるものの実質的核心を形作るのである。」

= 近世的見地の構成原理

「これら自導と自助の諸権利は、・・・一切の経済的関係に於いて諸人の間に、平等を確立し、産業組織をその最高可能の生産能率で維持するものと期待されていた。」

・二つの主要階級

「あの時分から見ると事物が変化したのであって、今では大区画の財産所有が、一國の産業を支配し、従って産業に携わろうとする人びとの生活条件を支配し、それと同時に、同じ大きな富の所有は市場を支配し、従って売ったり買ったりの為に市場に出入りしなければならぬ人びとの生活条件を支配する。換言すれば、事情の変化と共に、生きつ生かしつのは、いまや、大きな富の所有者の裁量に俟つことになったのである。」

「新秩序は、機械産業と会社財政と大実業と世界市場をもたらした。この産業および実業の新秩序の下に於いては、実業が産業を支配する。投資された大区画の富は、或いは機械産業のように産業設備の所有に依って直接的に、或いは農業のように、市場をとおして間接的に、産業組織を支配する。そこで、これら文明諸国の人口は、いま、二つの主要なる階級に分かれている。」

= 支配するものと支配されるもの

= 自由所得で生活するものと労働に依って生活するもの

= 既得権者と普通人

・既得権者と普通人

「既得利権は、合法的な只取りの権利で、通常、どこかの点で取引を支配することに依って確保されている所得に対する、時効取得の権利である。かかる時効取得の権利の所有者は、既得利権者と呼ばれる。・・・かやうに既得利権者を形作り、所有及び特権の既成秩序からその所得を引き出しているこれらの諸階級との対照に於いて、普通人がある。彼ら

は、かかる時効取得の只取りの権利を既得していないという点で、普通なのである。」

・ 付属的既得権者

「ある種の階級、職業、業務 - 例えば僧職、軍人、法官、警官、法曹 - の如きは、恐らく、本来は既得利権者の側に属さしむべきであるかもしれない程なのである。尤も彼らは、それ自身の力による既得利権者の内に数えることが出来兼ねるもので、寧ろ邊在的、付属的の既得利権者と見るべく、彼等が利権を享有するのは、かの、直接に大区画の富の投資に基づいて利権を享有するところの首要の自主的既得利権者達に、奉仕するという条件付きでのことである。」

・ A F L

「普通人に属するように見える階級や業務のもので、而も少なくとも一時的には既得権者に味方しており、また味方顔をしていることの拒み難いものがあるのである。そういうものの一例としては、A F L（米国労働総同盟）がある。」

・ 農民の既得権益

「農業には全く無形資産がないということは周知の事実であり、而して無形資産こそは、自由所得即ち只で何かを得ることの、主要な徴候でありかつ普通徴候なのである。高価な暖簾、独占権、乃至は既発会社の有価証券と行ったふうな形において、無形資産を持たないような会社なり商店なりは、既得利権者に列せられる資格は餘りないのである。既得利権者たる正当な資格をなすものは、生産的作業方面に於いての有形的働程に対する十分な代当物以上の所得を得る、確実な習慣的能力なのである。」

・ 農民の不労所得

「法律的形式の点ではなお、自助と所有の安固に関する一切の古風な権利や免除を享有しているとはいえ、有形的事実の点では、彼等はもはや自導的な主体ではなくなり、自助なるものは既に彼等にとって大体に於いて虚構になっているのである。」

「アメリカの農民達をして、結局、普通人よりも寧ろ既得利権者に与するに至らしめた理由、もしくは少なくともその先入観念は、彼等が単に農民であるばかりでなくまた投機的不動産の所有者だという事実から来るのである。そして彼等が不労所得の側に与している自分を見いだすのは、土地価格の投機者としてなのである。」

「典型的なアメリカ農業地方の所有耕地は、その現在の売買価格が、耕地としての現在の利用から生ずる所得の資本換算価値よりも余程大きいという意味に於いて、過大資本化（over-capitalization）されている。この超過価値は、人口増加や、農産物を市場に売り

出す利便の発達に伴ってこれらの耕地に生ずると期待される未来の増価の、割引換算に依って生ずるものである。・・・けれども、彼等が、この不労所得を手に入れるのは、事故の所有地の売却に依ってであって、農耕の生産手段としての土地の現在の利用に於いてではない。」

#### ・普通人の側の無自覚

「実業と産業の新秩序が、既得利権者と普通人との間につくりだしてしかるべき分裂は、明らかにまだ、少なくともアメリカに於いては、明確な戦で画されていない。普通人は、少なくともまだ、普通人としての自分を知っていないし、既得利権に対立する普通人階級を構成するような部分の人口は、まだ進退を共にするところ迄行っていない。アメリカの伝説がその邪魔をしている。この伝説は曰ふ、わが共和国の民衆は、上下なく主人なき人びとから成り、各人は自導、自助、自由取引、機会均等の一切の権利と免除とを享有する - いちいちかの18世紀の偉大な憲法文書のなかに書き込まれてある通りに、と。」

#### ・既得権者の意識的行動

「一方、既得利権者及び扶持階級は、何を必要とし、何を欲し、且つ何が与えられるかを洞察し、明確にしているのである。彼等は、この分裂に於ける事故の役割を熟察し、選定し - 一部は利害感に基づき、一部は疑いもなく習慣に依って刻まれた性向に基づいて - 而して彼等は正しきを備えているのである。」

#### ・気持の溝渠

「気持の上の溝渠(cleavage of sentiment)が、既得利権者と、色さまざまな大衆との間に流れはじめていたのであって、そして普通人は、この年代ものの公正と良習の先入思想に基づいた訴えに対して、ますます冷淡に、或いは全く無感覚にさえもなりつつあるのである。」

#### ・普通人大衆の新意識

「要するに、年代ものの掟(the time-worn rules)がもはや新たなる物質的諸事情に適合しなくなるごとに、しなくなった限りにおいて、もとのような信頼を人びとから受けなくなる、という程のことなのである。こうした制度物の摩損消耗(the wear and tear of institutions)は、環象が変化するかぎり避け難いことである。そして、制度物の摩損消耗が事実化するの、人口中これらの変化する環象に尤も直接に曝される分子個人個人の反応表現の変化をとおしてのことである。」